コミュニティ

Young-G

自分にとっての東南アジアのヒップホップの現地体験は2011年のフィリピン、マニラのトンド地区で日、仏、独の文化交流機関によって共同開催された『RAP IN TONDO 2』が最初であります。トンド地区の子供たちにヒップホップの音楽、ダンスのワークショップをする、という企画でした。

RAP IN TONDO 2

当時はまだ、日本語、英語以外のヒップホップはほとんど日本に情報が入って来ていませんでした。そんな中、現地で聴くタガログ語のヒップホップはあまりにも逞しく、衝撃でありました。それから世界中、特に東南アジアのヒップホップをインターネットで探したりするようになりました。そこで日本やアメリカのヒップホップとの違いや、宗教、地域性などの違いも改めて感じました。特にフィリピン、マニラ、トンドの地域性という意味では特殊な部分があり、世界的に有名なスモーキーマウンテンを有する東南アジア最大のスラムと呼ばれる場所であります。また、ギャングの存在も忘れてはなりません。ギャングも様々で歴史も古く、広くは自警団、青年会、コミュニティサービスといったものにまで及びます。アメリカや南米では、特にその存在は日本よりオープンなもので、スペイン、アメリカ統治を経たフィリピンでも同じものを感じました。フィリピン最大のギャング TBS13 にかつて所属し、幹部まで上り詰めた OG SACRED（OGはギャングの称号Original Gangsterの意）は、少年時代からギャングとしての活動を始めます。ギャングとヒップホップは綿密な関係にあり、古くはアメリカのヒップホップの創始者の1人アフリカバンバーターの「ギャングの抗争を止めるためにラップやダンス、グラフィティー、つまりヒップホップを発展させた」という話は有名です。フィリピンでも伝説的なラッパーのフランシス M が、『Man from Manila』を90年代にヒットさせフィリピンのヒップホップの土壌を一般層まで押し上げます。そういったヒップホップ作品に影響を受けて

OGもギャングでありながらラッパーとしての顔も持ち始めました。そして同時に、ギャングの経験を生かし、ジム・リビラン監督のトンドを舞台にしたストリートギャングの映画『Tribu』に、主演の1人として抜擢され、話題を呼びました。

映画『Tribu』（2007 年）トレイラー / フルバージョン

OG SACREDはラッパーとしても成長していき、Tondo Tribeというトンドの若者を中心にグループを結成し活動の幅を広げていきます。そこで開かれたのがRAP IN TONDOであり、自分とOGの交友がそこから始まります。OGは、マニラ、トンドのベラスケス地区の顔役でもあり貧困、ドラッグ汚染、ゴミ問題といった内容の集会やキャンペーンに参加しコミュニティの問題に向き合った活動もしています。彼曰く、「トンドは貧しいが愛に溢れた場所、音楽家や芸術家、革命家を多数輩出した歴史ある街」だと言います。そんな彼にインタビューを決行しましたのでトンドや彼のバックボーンを含め読んでみてください。

インタビュー 下記に続く。

STOP IT! music video - Les Coudes Production and Tondo Tribe

Buhay Ng Gangsta - Hukbalahap, OG Sacred & Braduzz

メール・インタビュー

ゲスト：OG SACRED
聞き手：Young-G
翻訳（タガログ語-日本語）：平野真弓

ートンドはどのような場所ですか？ 歴史や文化などを踏まえて、トンドの特徴を教えてください。また、トンド地域出身の革命家や芸術家についても教えてください。

OG: トンドはフィリピンで最も恐れられている場所だ。多くの悪名高きギャングスターがここで生まれ育っているからだ。彼らの人生の多くは映画化されている。それにも関わらず、多くの偉大なアーティストがトンド出身で、ここには沢山の才能と良い話が身近にある。この国で最も著名な勇者の一人、アンドレス・ボニファシオ（カティプーナンの父）もトンドの出身だ。

ートンドの若い世代はフィリピン革命（1898年）について、どのように思っているのでしょうか。

OG: これは植民地支配者に対する国全体の闘争だった。武器や戦闘員の数が不足していたにも関わらず、国と国民の自由を獲得するために、フィリピン人の回復力、勇気、知性でもって外国の征服者に挑んだ闘いだった。

ーギャングスターの歴史、活動、役割について、自警団としての意味も含めて、 ご存じの範囲で教えてください。

OG: トンドには有数のギャングスターやグループがあり、長老たちの話によると、ギャングスターは強盗や恐喝、用心棒代の請求、金銭目的の政治家の後ろ盾、縄張りを巡るギャングスター間の抗争や殺戮といった悪行によって生存してきたと言われている。それにも関わらず、彼らは公然とトンドの貧しい地域社会を支援してきた。

ーラップは、あなたとあなたのコミュニティにとって、どんな意味をもっているのでしょうか。どのようにしてラップを始められたのでしょうか。あなたのコミュニティにとって、今日、音楽はどのような役割を担っているのでしょうか。

OG: 多くの奴にとって、ラップは音楽のひとつの形、あるいは今流行りのパワフルなジャンルだ。しかし、オレにとってラップは、音楽とともに進む、詩の現代的な形であり、感情を表現する方法であり、周囲に刺激を与え、効果的に導き、教訓、インスピレーションと希望を与えることのできる、職業であり人生だ。

ー昔と比べて、ギャングスターの今の状況についてどう思われますか。

OG: オレの同世代や仲間の多くに変化があり、状況が改善した人もいるし、悪化してしまった人もいる。プロになって正しい道に進んだ人もいるし、寡黙に物事を深く考えている人もいるし、 影響力を得たがさらに危険な道に進んだ人もいる。しかし、それぞれの奴らは、過去から得た唯一無二な力を活かして、現在、生きていることがわかる。

ーあなたは将来、どのようになりたいと思いますか？

OG: リーダーでありインスピレーションであり続けること、 悪しき過去をもつ善良な男、 他者には叶わぬ夢を実現する人、 人生における全ての戦いに挑み、全ての苦難に立ち向かう人、 他者を導く意志をもち、善例を示す人。

関連リンク

- Tondo Tribe FB https://www.facebook.com/tondo.tribe
- Tondo Tribe on BBC https://www.bbc.com/culture/article/20180525-the-inspiring-rappers-from-the-manila-slums

関連ワード

リリシズム